

別、女官として宮任えし源氏物語完成後45歳で急逝したこと、又物語のモデル主人公は、平安朝時代全盛を極めた右大臣藤原道長であったことを知りました。

想像的な書物より歴史の中の偉大な人物の伝記なり、自叙伝等を愛読することにより現在の自分を知る上にプラスになり、子弟の教育、躰にも役にたつと思います。

アンから生まれた「布の絵本…」

渡辺 君代
三ッ沢(36歳)

赤毛のアン——アンと私は同い年の10歳でした。イヤな事、悲しい事どんな事でも「赤毛のアン」(モンゴメリー原作) はたちまち喜びや楽しい思いに変えてしまうゲームを思いついたのです。

私も一諸にゲームに加わるとそれはいつしか果てしない夢の世界へ広がっていきました。

そして私の心もあれから20数年たった。現在私はワンパク2児の母、何かとあわただしく過ぎていく日々が気が迷入ってしまうこともあります。

アンのように独自の夢と希望のある世界を創り出したいと願いました。

そんな生活の中から「布の絵本、さわる絵本」が生まれました。

これは6年程前、子ども達に何か夢や希望を与える事ができないかしら、と思いめぐらしてできたものです。

布のうえに刺しゅうをめぐらし、本物の素材を取り入れながら物語を創っていく。少しでも子ども達に夢を、と思い生まれたオリジナルです。



孫に読み聞かせる島崎さん

父が与えてくれた本が…

島崎 章子
厚原(62歳)

それは、昭和3年私が小学校入学の年、「小学生全集」を父が取ってくれた時に始まります。小公子、小公女、母を尋ねて……等今も読み継がれているものも毎日よく読みました。

以後13年に勤め始めてからは、給料を貰うとすぐ本を買いました。

父がそのもとをつくってくれたのに「女のくせに本ばかり読んで」と叱られました。レベッカ、大地等評判

になったものは片端から読みあさったものです。チャタレー夫人もその中でしたが戦前の事で伏字ばかりで何だかさっぱりわからなかったのも思い出です。壺井栄の「あしたはあしたの風が吹く」の言葉が好きで座右の銘とし、自分で努力すれば明日は何とか道が開けると思い、今日まで生きて来ました。

本好きのおばあちゃんはボケ防止対策としてこれも本好きの孫といっしょに頑張っています。

富士の男性は威厳がある…?



菊池千鶴さん(31歳)と二女の絵美ちゃん(富士岡花守町)

プロフィール

10年前に神奈川県厚木市から富士市へ。

近所の友達と、材料を持ちより、パンやクッキーなど手づくり料理を作るのが楽しみですという、2児の母親でもある奥さんです。

厚木はどんな街ですか
菊池 厚木というと、すぐ基地を思い浮かべる人が多いですが、私の住んでいた所は、だいぶ離れていましたし、私自身も基地があるなんてピンとこない感じでした。

富士市の印象は
菊池 はじめてきたとき感じたんですけど、道路のすみずみ、細い道まで舗装されていたのには感心しました。

それと物価、とくに家賃なんかずいぶん安いですね。あとは食べ物。富士へきてはじめて生じらすとか生の桜エビを食べました。魚が豊富でいい所ですね。

人柄の違いはありますか
菊池 厚木は女性を大切にするというかレディーファースト的なところがありました。富士はいい言葉でいえば男性は威厳がある、悪い言葉でいえば男っているという感じがします。(笑い)

行政に何か注文はありますか
菊池 大へん住みよいし、特別ありませんが私の住んでいる花守には、交通標識が少な気がします。